

平成27年度 安全管理優良受注者



株式会社 小野組

1. 工事概要

人工リーフ部

- ・突堤本体捨石投入 58m³
- ・消波ブロック据付(4tペルメックス型) 316個

河川土工部

- ・養浜土砂運搬 23,000m³
- ・根固ブロック運搬仮置(3t) 360個
- ・袋詰玉石製作設置(3t) 243個

クレーン付き台船によるブロック据付作業



工事区域表示(黄旗ブイ)



工事区域表示(黄旗)



2.社内安全管理体制

安全衛生大会

- ・毎年6月に全社員が参加し、安全意識の高揚を目的に実施
- ・安全、衛生活動に優れた実績を残した社員を表彰



社長パトロール

- ・社長が自らが年数回、各現場の安全パトロールを実施し、改善指導



施工検討会

- ・工事着手前に全工事において事故リスクを明確にし、安全管理を重視した施工計画書になっているかを検討



安全衛生委員会

- ・毎月、土木事業部、建築事業部、総務部等の各部門からの委員により、事故事例や安全法令を基に情報共有・検討を行い、各作業所へ安全衛生委員会議事録により周知徹底



3.工事現場における日々の安全活動

リスクアセスメントを用いたKY活動

- 作業当日に災害の程度と発生の確率による危険要因リスク評価を行い災害防止

危険予知(KY)活動日誌

作業日 年 月 日

作業員 後 印 安全監督

工事名 乙未白川敷茶屋人工リーフ補修工事 **リスクアセスメント欄**

協会の名称 西武建設 小野道 作業責任者(點検) 志名

本日の作業	これが危険のポイント(及ぶものなほ危険がある)	危険要因(発生の程度)			発生し得る結果(危険の範囲・対策)
		発生確率	発生頻度	発生場所	
作業員					
本日のKYポイント					

安全書の確認 (シフト別)

No.	新規	参加者氏名	欠席	No.	新規	参加者氏名	欠席
1				6			
2				7			
3				8			
4				9			
5				10			

① 危険予知活動の目的 ② 危険予知活動の範囲 ③ 危険予知活動の参加者 ④ 危険予知活動の記録 ⑤ 危険予知活動の評価

毎日の点検活動

- 通常の機械始業前点検等の他、当現場に即した作業前点検

係船ロープ点検



玉掛けワイヤー点検



災害防止協議会及び工事連絡会

- 毎月、災害防止協議会を開催し、翌月の各作業間の危険ポイントを確認し災害防止
- 『塩谷地区土砂運搬工事関係者連絡会議』の副会長として、事業箇所全体の安全管理徹底



エアースーツ点検



潜水土酸素マスク点検



4.安全教育の充実

安全教育・訓練

・当現場に即した教育・訓練の実施

油漏れ対策訓練



救命胴衣指導



津波を想定した避難訓練

- ・海上、海岸での作業の為、避難訓練を実施し津波到達予想時間(最短10分、村上市の津波ハザードマップより)内の約7分で退避できる事を確認
- ・津波避難場所の掲示を一般者(海浜利用者)にもわかるよう航空写真を使い、避難ルート・場所や目安距離を明示

避難場所・ルート明示



避難訓練の様子



5.その他 顕著な活動

三方良しの公共事業

・当社は三方良しの公共事業改革推進研究会の新潟支部長を務めており、全ての工事現場において工事の目的や効果などを明確にするため、『地域のための工事目標シート』を作成(検討会)を実施している。一般の人にも見れるようにシートを現場工事掲示板に貼り成功基準達成を目指している結果、無事故で工事を完成でき、地元から地域貢献で感謝された。



『地域のための工事目標シート』

プロジェクト名

乙大日川放水路人工リーフ補修他工事

目的 Objectives

荒川・乙大日川放水路の流れの確保
 海浜保護
 ブロックの備蓄ヤードの確保
 地元の協力会社を使って地域貢献する
 高得点をとり、次の工事につなげる
 無事故で工事を完成させる
 マリーナ利用者に喜ばれる
 若手技術者(大倉)の育成

成果物 Deliverables

きれいな海浜
 見やすい完成書類
 丈夫な堤防

成功基準 Success Criteria

地元業者を3社以上使う
 マリーナ利用者・漁業者から『ありがとう』と言われる
 無事故・無災害
 評定点81点以上
 技術研究発表に選ばれる
 品質管理された均質な堤防をつくる(締固め密度:目標92%)
 部門内教育で発表する

救急救命講習

・全社員が日本防災士機構の「防災士」を目指し、毎年外部講師の講習と、消防士による救命講習を受講し資格取得(社員128人中、43名取得済)継続取得中



胎内川清掃活動

・胎内川の環境美化を目的に不法投棄等のゴミを回収する清掃活動を毎年実施し、地元への地域貢献(今年で7回目)



次世代の担い手確保(現場体験学習・インターンシップ)

・荒川中学校や新発田南高校を対象とした現場体験学習を実施し、建設業のやりがいや楽しさを伝え、次世代の担い手を育成
 感想文には『この職業に就きたい』と好評だった。結果、小野組入社希望となりました。

荒川中学校の現場体験学習



女性社員
による説明

新発田南高校の現場施工体験



新発田南高校のインターンシップ

